

○司会（武市財務局長） はい。どうぞ。それでは都民ファーストの会 東京都議団の皆様でございます。でははじめに要望書の手渡しをお願いいたします。どうぞ。

（都民ファーストの会 東京都議団 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） はい。どうもありがとうございました。ではどうぞ、ご着席をお願いいたします。はい、それではこれより平成31年度予算編成に関する政党要望を始めさせていただきます。それではまず冒頭知事からお願いいたします。

○小池知事 はい。皆さん、お揃いでご苦労様でございます。本年もぎりぎりに迫ってまいりましたけれども今年度の、今年度というか新年度の税制大綱におきましては都といたしまして大変大切なこの財源がかなりの部分浸食されるということで、皆さんにもいろいろとご活動いただきました。またサポートしていただいたこと、心より感謝を申し上げます。そしてこれから都議会各会派からのご要望を伺うということでございますが、来年度につきましてはまさしくオリンピック、パラリンピックの前年でございますので、前年度でございますので、もう仕込みの最終ということで極めて重要な段階に入ります。また、申すまでもなくオリンピックの後の2025年には超高齢社会が怒涛のようにこの東京を襲ってくるということでございます。その意味で今回の新年度の予算編成というのはいつにも増して重要な予算編成になるかと、このように思っております。皆様方の都民目線の様々なご要望を伺いたいと思います。今日もどうぞよろしくをお願いいたします。

○司会（武市財務局長） はい。それではさっそくでございますが、増子幹事長、どうぞご着席の方で結構でございますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○都民ファーストの会 東京都議団 都民ファーストの会 東京都議団でございます。本日は予算編成に関する要望にお時間を取っていただきましてありがとうございます。私共全員の、力で、様々な分野からの要望を作らせていただきまして、ただ今、知事にお渡しをさせていただきました東京都予算編成に関する要望書は924項目、都政の全ての分野に渡っております。これにつきましては後程、ご覧いただき、各それぞれの分野の予算編成に是非お役立てをいただければありがたいというふうに思っております。そして本日は、その中でも特に私たちが重点項目と考えております内容につきまして、「人」を大切に作る安全・安心の東京へというスローガンのもとに立てさせていただきました10項目につきまして、小山政調会長より説明をさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。それでは政調会長、よろしく申し上げます。

○都民ファーストの会 東京都議団 それでは私共、都民ファーストの会 東京都議団の、平成31年度東京都予算編成に関する要望ということで先程益子幹事長の方からございましたようにお手元のこの横の重点項目の説明資料の方を元に、私の方からご説明を申し上げたいと思います。今回の予算編成に関する大きな点として、先程益子幹事長からございましたように、「人」を大切に作る安全・安心の東京へということを大きな副題として、私共、今回要望をさせていただきたく存じます。

1枚おめくりをいただきたいと思います。2ページ目から記載をさせていただいておりますのは、これは今回の国の大きな改正で幼児教育の、また保育の無償化ということが取り組まれようとしておりますが、その中で残念ながらその対象とならない方々、お子さん、こういった全ての子どもたちを私共大切に大事にしていかなければならない。そして、一人のそういった取り残しのないようなそういった取組を是非ともお願いをしたいということで、そちらに記載の通り、国の無償化の穴ともいべき0歳から2歳児のお子さん、その大半が対象外となることから、ここへの支援を是非ともお願いしたいというふうに考えております。また2ページ目の、3ページ目になりますけれども、特に私共、やはり少子高齢化の少子化ということの対応としまして、0歳2歳児の支援の中で2人目以降の保育料の軽減ということで第2子第3子を抱える家庭の経済的な負担、この軽減に是非ともお努めをいただきたいと要望するものでございます。次のページをご覧くださいと思います。

4ページ、5ページになりますが同じようにこちらでも認可と認可外で格差が生じております。こういったことについての支援をしっかりとお願いをできればということと併せて5ページ目になりますが、幼稚園類似施設がやはり今回の対象から外れております。こういったところに通われているお子さんも私共大事な都民のお子さんでありますから、しっかりとその幼稚園類似施設を含む、実質的な通所するお子さん、親への支援も是非ともお願いをさせていただきたいということでもあります。

次のページをご覧くださいと思います。6ページ目にはこちら代表質問また先般、知事への要望でもさせていただきました防犯カメラの維持管理、ここに関する補助を、是非ともお願いをしたいと、地域の安全・安心を守るという意味で極めて重要なこの防犯カメラの維持管理費、修繕費、こういったところに大きな負担が生じております。自治会や町会や商店街、こういったところの敷設をいただいておりますこの防犯カメラについて、一層の補助の拡充をお願いをしたいということで要望をさせていただくものでございます。

続きまして7ページ目をご覧くださいと思います。子育て支援・子ども施策ということで、やはり「こどもは東京都の宝」ということで、この宝である子どもの支援ということで子育て支援、これまでも知事の方も本当に保育所の整備であるとか保育人材の確保ということに東京都は努められておりますが、より一層のご支援をお願いをしたいということと、さらに先般の代表質問でも申し上げましたが、病児・病後児保育の充実、こういったところが、やはり働く親の皆さんの支援にもつながるということで、是非ともお願いをさせていただきたいと思います。またその下段の方には「こども電車」ということので都営地下鉄での導入など、やはり子育てのしやすい環境整備ということを是非ともお願いをできればと思います。

続きまして8ページ、9ページをご覧くださいと思います。私共、「健康ファースト」の施策ということでやはり都民の健康を守っていくと、これも大変大事な点でございます。これも議会等々で何度もお願いを申し上げておりますが、受動喫煙対策、フレ

イル対策、認知症対策といったそれぞれの対策の強化をお願いをしたいと。特にフレイル対策についてはまだまだ都民の中で十分このことが周知をされているという状況ではありませんので、是非医師や歯科医師や薬剤師という専門家の知見を得ながら、都民に広くこのフレイルが普及啓発されるようなそういった支援を求めさせていただきたいと存じます。また9ページにございますように、高齢者の就業支援ということで、各自治体にシルバー人材センターがございますが、そのシルバー人材センターの中で「シルバーお助け隊」ということで各地域それぞれ取り組まれているところがございます。ただ、まだまだこれが全自治体の中で取り組まれているわけではございませんので、こういった高齢者や障害者や母子家庭を対象にされたような、そういった支援を拡充していくためにも、やはりこの「シルバーお助け隊」というような事業、それぞれ地域によって呼び名が異なるんですけどもワンコイン事業として家事支援の事業がございますので、是非そういったところにも財政的支援をお願いをしたいと存じます。また介護人材への支援、介護というのはこれは喫緊の課題でもございますので、ここへの人材の支援をお願いをするところでございます。

続きまして10ページ、11ページをご覧をいただきたいと存じます。こちら2020年大会、先程知事からもお話ございましたようにもう再来年の直近ということで、やはりこの機運醸成をしっかりと図っていかなければならないと考えております。その中で、どうしても多摩地域が競技会場が少ないということであるとか、先般ライブサイトについても区部が7カ所、市部が1カ所の候補ということになっておりますので、是非とも多摩地域全域ですすね、競技会場有無にかかわらず盛り上げをしていただくような、そういった取り組み方をお願いをしたいと思っております。特にコミュニティライブサイトなどに対する補助を、是非創設をいただきますようよろしくをお願いをしたいと思います。

11ページをご覧をいただきたいと思えます。11ページはこれはもう都内の自治体の支援ということで、当然区部につきましては都区財政調整の部分の充実ということもありますし、支部につきましてはやはり多摩地域市町村総合交付金、この拡充が自治ということでも極めて重要な点でございますので、本年度につきましても格段のお取り計らいをいただけますようよろしくをお願いを申し上げます。

続きまして12ページ、13ページをご覧をいただければと思います。まず12ページにつきましては環境先進都市・東京ということで、やはり環境の取組というのがこれからの都市の中で極めて重要であるということから、そこに記載のフロン対策、特に来年度以降フロン対策、極めてここの部分は重点化、重要な部分と考えてですね、こういう対応に苦慮されております都内の中小企業、大企業は大幅な取組をされていらっしゃるということでありますがやはり中小企業への支援ということも是非念頭に置かれて支援をいただきますようよろしくをお願いを申し上げます。また電気自動車のフォーミュラカーレースのフォーミュラEのこの誘致などもですね、極めて多くの都民の普及啓発、その環境という点から大事だというふうに考えておりますので是非ともお願いをいたしたいと思えます。

続きまして8の災害対策・暑さ対策ということで、これは本年の大変な暑さ、あと大変

今年は大変大事な部分ということで既に先般の補正予算で知事にお取り組みいただいているところですが、やはりこの区市町村庁舎の非常用電源の設置であるとかあるいは学校施設の空調設備の設置というのは、これは単年度だけではなくて次年度以降も継続してお願いをさせていただきたいと、これは地元の様々な自治体からもそういうお声をいただいておりますので、是非ともよろしくお願いをしたいと思います。また当然、学校施設、そういう災害対策、暑さ対策を行ってまいりますと公私間格差が出てまいりますので、この公使間格差に対する是正の措置についても是非ともご検討いただければと思います。

また、これは先般の代表質問の中でも申し上げましたが、やはり消防団の活動というのが都民の安全・安心を守る上でも極めて大事だと、しかしながらこの猛暑酷暑に対する暑さ対策の整備が必要であるということで先般の代表でもご答弁をいただきましたが、やはりこういった被服の整備など是非とも充実を図られるようお願いをしたいと思います。

さらに、これはもう無電柱化ということはこれまでも申し上げておりますけれども、やはり一層の取組を是非ともよろしくお願いをしたいと思います。

続きまして14ページ、15ページをお開きをいただければと思います。14ページにつきましては教育内容・環境の整備ということでやはり全ては人であると、その人を作るのはまさに教育であるということで、この教育内容の充実というのがこれからの東京の成長発展に欠かせないものというふうに考えておりました、この時代に即した教育内容の環境の整備ということで、小学校の英語科強化に向けた専科指導員の配置促進やあるいはプログラミング教育必修化に向けたICT環境の整備、こういったことに是非ともお取り組みいただきたいと思いますし、またこれは先の定例会、前々回になりますが、性教育のことについても私共提言をさせていただいておりますのでどうぞよろしくお願いをしたいと思います。またスクール・サポート・スタッフ配置の支援であるとか、あるいは部活動指導員など専門スタッフの確保によりまして、実際、教育内容、教員の負担軽減を図るとともに子どもたちにしっかり先生が向き合えるような、そういった教育環境というものを是非ともお願いをしたいと思います。また同じように教育内容・環境整備については、こちらもちろん公教育の充実が図られることになれば私教育の方についてもご配慮を願いたいということでございます。

最後15ページになりますが、今回の税財源の措置について、私共としてはやはり断固としてこれは容認ができるわけでありませんし、引き続きの対応をとっていかなければならないと思っておりますが、やはり全国の他地域との共存共栄ということが私共大変大事だと思っております。その共存共栄の施策として、そちらに記載の通り日本各地と連携した観光施策、あるいは他の道府県のアンテナショップなど、こういった支援を行いながらやはり他の地域の多くの協力、理解を得ていくということがこれも必要であろうというふうに考えております。

また多摩産材や、これは知事も取組をされております全国の国産木材、こういったもの

を積極的に都営地に、都の施設について、ご活用をいただきたいと思っております。

最後に、この都民への普及啓発という段で書かせていただきましたが、昨日の議論の中でも私共会派から申し上げましたように、やはり多くの方にこの都税の収奪ということの状況をしっかりお知らせをいただいて、多くの都民の支持のもとに今後の対応をしっかりとっていけるような、そういったことを是非ともお願いをさせていただきたいというふうに考えております。

以上、私の方から10項目に渡りまして重点の項目の説明をさせていただきましたが、これら重点項目、そして924に渡ります私共の東京都に対する要望について、是非とも特段のご配慮、そしてお取り組みいただけますよ心よりお願いをさせていただきますましてご説明とさせていただきますたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

○司会（武市財務局長） はい。どうもありがとうございました。まだもう少しお時間もございますが、他のご出席の先生方、何かございましたら。

○都民ファーストの会 東京都議団 今日はありがとうございます。この予算要望書の中には、都市ボランティアに関する記述というのでも幾つかございます。都市ボランティアについては募集が12月の21日まで延長されたということでございまして、どのような研修内容になるかというのが来年度決まっていくというふうに伺っているわけですが、記憶に残る都市ボランティアにするための演出っていうのは、まさに東京都の職員の方にかかっているんだと思っております。で、ボランティアに応募される方々というのは、東京に対する愛があって、それから東京に誇りを持っていると。そうした人たちのパフォーマンスを最大限発揮していくことが重要だと思っております、そこを担当していく部署の充実というものをどうぞよろしくお願したいと思っております。

○都民ファーストの会 東京都議団 是非とも、ただ今重点で説明も申し上げました点につきましては、やはり都民の安全と安心ということ、そして人を大切にすると、やはりこの点に重きをおきまして重点項目、そして924のこちらの本項目につきましても私共多くの都民の方々あるいは都の関係の団体の皆さん、そういったことからお聞きをいたしまして、是非とも都として対応を、お取組を願いたいということで要望をさせていただいておりますので、こちらの924の項目についてもよろしくお願をさせていただければと思います、はい。

○都民ファーストの会 東京都議団 これはこれでよろしくお願いたします。それで来年度予算に直接関わるかどうかちょっと分かりませんが、例のそのいわゆる9,000億円がもし恒常的に、やっぱりそのなくなっていくということになりますと、リーマンショック級のことがずっと起きるというようなことになりますので、財政構造の検討ということも、まあ来年すぐということではないかもしれませんが今後の課題ということで、私たちも一生懸命、研究も検討して参りたいと思っております、是非ともお取り組みいただければというふうに思っております。よろしくお願いたします。

○司会（武市財務局長） はい、どうもありがとうございました。それでは最後に知事か

ら一言お願いいたします。

○小池知事 はい。ここの表紙にありますように「人」を大切にする安全・安心の東京へというこの副題でございますが、まさしく東京都として、やはり人がいての東京と、人が輝いての東京という、そういう点で軌を一にするものだと考えております。また、先ほど財源のお話もございました。より効率的に、そしてまた都民の生活にしわ寄せがいかないように、逆にもっともっとその経済力を伸ばして、そして稼げる東京にもしていきたいと、そこで男性も女性も障がいのある方も年も関係なく皆さん輝けるような、そんな新年度予算に編成していきたいと思っております。皆様方のご要望をしっかりと受け止めていきたいと思っております。今日ありがとうございました。

○司会（武市財務局長） では、以上をもちまして終了とさせていただきます。はい、どうもありがとうございました。

（都民ファーストの会 東京都議団 退室）

○司会（武市財務局長） はい、どうぞ。どうぞ、公明党の皆様でございます。ではどうぞ。まず要望書の手渡しをお願い、どうぞ皆さん、どうぞ、一緒にどうぞ。

（都議会公明党 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） はい、どうもありがとうございました。ではどうぞ、ご着席をお願いいたします。はい、それではこれより平成31年度予算編成にかかる政党要望を始めさせていただきます。ではまず、冒頭知事から一言お願いをいたします。

○小池知事 東村幹事長初めとする都議会公明党の皆様方におかれましては昨日までの4定におきましても補正予算の成立、そしてまた中小企業等にかかる条例の成立などなど本当にご協力を賜っておりましてありがとうございます。さらには毎年のように襲ってくる例の税制の見直しという点では、今年、今年度と言いましょいか、新年度用に、新年度ではないんだな。今年、山口代表のですね、ほんとに魂の込められたお声を頂戴いたしましてどんなに勇気づけられたことでありましょいか。そしてまた同時に、やはり共存共栄あつての東京でございますので、そういったことも含めまして今回この財源の問題につきましては、都民にそのしわ寄せがいかないように、しっかりと効率的な財源のこの使い方、そしてまたこれからも東京が、日本をけん引する大きな役割を担うんだというその責任感とともに、より活性化する経済、そしてまた2019年、来年のラグビーワールドカップもそうでございますが、いよいよ2020年東京大会が目の前に迫ってきて、そして来年度の予算っていうのはまさしくそこに向けての大変重要な予算編成になるとこのように位置付けております。そしてまた都民の皆様方が誰もが輝ける、そのような予算にするためにも、皆様方のお声をしっかりと伺わせていただきまして、そして素晴らしい新年度予算を作り上げてまいりたいと思っております。日頃のご協力に対しまして改めて感謝を申し上げますと共に皆様方からのご要望をしっかりと伺わせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） それではさっそくでございますが、東村幹事長、どうぞご着席

のままで結構でございます。はい、ご着席のままで結構でございます。よろしくお願ひいたします。

○都議会公明党　まず冒頭、我が党が要望してまいりました今年の夏の猛暑、そして場合によっては東京も直撃するかもしれない集中豪雨に対する公立学校の避難所となる体育館の冷房暖房設備の設置について、至急補正予算を組んでいただきたいという強い要請に対して、知事の方からかなり積極的な補正予算を組んでいただいた、これが第4回定例会で成立したことをまず御礼を申し上げたいと思います。その上で4点、私の方から大きく申し上げたいと思います。

1点目は今、申し上げました小学校、中学校、高等学校。高等学校は東京都が直接行いますから小中学校の体育館の空調設備の設置についてですね。特に23区と違って財政力が弱い多摩地域、今、我が党が現場調査をしているとかなり23区が積極的にこの補正予算を使ってやろうとしているんですが、多摩地域はどうしてもやっぱり財政力の問題で、上出し部分で東京都が3分の2、76,000円までの上出し部分の3分の2、東京都が助成をしていただいてもまだまだ踏み切れないという多摩地域の自治体がございます。そういう意味で来年度の総合交付金において残りの3分の1、これを多摩地域においては総合交付金で活用できるような仕組みを作っていただきたいと思ひますし、また多摩地域の特徴で、いわゆる一般的に公民館、よく市民センターといわれているあの公民館、市民センターに実は体育館がございまして、これがちょっと多摩地域の特徴で、その体育館が実は小学校、中学校と同じように避難所になるんですね。こういう公民館、市民センターの体育館においてもこの総合交付金を活用して空調設備が設置できるように、併せて強く1点目、お願ひをしたいと思います。

2点目は国が幼児教育の無償化、これを来年度踏み切ります。ただ、課題が幾つかありまして、国は0歳から2歳までの部分について住民税非課税世帯については支援をするスキームを作っているんですが、このそれ以外の課税世帯についてはこれを支援するスキームがございません。ただ3歳児から5歳児までに関しては、これは課税世帯においても支援をするスキームを作って東京都も応分の負担をする。これは認可保育所だけでなく認証保育所もそうでございます。従いましてこの0から2歳の課税世帯の保護者負担に対する支援が全くありません。本来これは、ここ国が幼児教育を無償化するというのであれば国がしっかりと作るべきなんです、今回はそこが抜け落ちていますんで、額も大きいんですけども、全額というとなかなか東京都、この財政、特に税収を持っていかれている中で厳しいと思ひますので、何とか少しでもこの0歳から2歳、認可、認証保育所に通っている保護者の世帯に支援をご検討いただきたいと思ひますし、我々も引き続き国の方にここが抜けてるっていう事を、しっかり国としても対応しないとイケないと、総理が女性が活躍する社会を、日本をつくるというのであれば、特にこの0歳から2歳までをしっかりと手当てしないとなかなか女性が活躍する社会にはならないと思ひますので、そこも含めてしっかりこれは国にも言いますので、東京都としても支援の仕組みを考えていただき

いと思います。

3点目は国が登下校の防犯プランというのを作って緊急点検を昨年、今年度末、行いました。その中で区市町村からの緊急点検の結果を聞くとところによると、都内でまだ600ぐらい防犯カメラを設置しなきゃいけないという実情が明らかになりました。確かに維持メンテナンスも今回踏み込んでいただいて大変にありがたいんですけども、まずは面の拡大をしなきゃいけない。いきなり600台は難しいかもしれませんが、計画を立ててなんとかこの区市町村から上がってきているまだまだ危険だといわれている地域の防犯カメラ、これを至急拡大をしていただきたい、このように3点目を思っております。

4点目は偏財税制の問題に絡んでくるんですけども、今後、報道によれば、東京都と国が都市のインフラ整備で協議をしていくという話があります。東京のこれから稼ぐ力を見いだしていくためにも、交通インフラの整備というのが不可欠になってくると思っております。特に羽田空港というのは海外からの玄関口になるわけでありまして、この羽田を中心とした、また多摩地域の南北のなかなか交通がないという多摩地域のモノレール、こういったものを含めた優先6路線、これについて国費が導入できる少しでもスキームを作っておりますね、国に対して知事の方から国費が投入できるスキームを考えて、これを是非とも加速化をさせていただきたい。これが4点目でございます。

以上私の方から大きく4点の要望させていただきました。以下、重点要望について橋政調会長から述べさせていただきたいと思っております。

○都議会公明党 それでは私の方から細目についてお話をさせていただきます。公明党の予算編成に関する要望につきましては、この厚目になってますがここにまとめてありますけれども、今日は時間の関係で重点項目という小冊子にまとめてありますので、その方を中心に抜粋して説明させていただきます。

1ページをご覧ください。局横断的な対応を云々という項目ですけども、これについては今、幹事長が申し上げたように、防犯カメラの設置、これを充実してほしいという内容がここに書いてあります。この絶対数がやっぱり不足だというそういった認識で私たちはこれを強化すべきだということで掲げさせていただきました。

次に4ページをご覧ください。これもやはり幹事長から今、話がありましたけれども、学校のエアコン、体育館のエアコンに関する項目でございますけれども、これはもう知事が既に本会議で答弁されたように3分の2補助の継続であるとか、それからリースでの対応であるとか、それから付帯工事への補助、こういったことは明確に答弁をしていただきましたけれども、これが実際にこの実施段階でいろんなトラブルがあったりするとまた区市町村もやる気を削ぐことになっていきますので、これは丁寧に対応していただきたいと思っております。

次に8ページをご覧くださいませでしょうか。真ん中辺の生活文化局関係ですけど、私立高校の実質授業料の無償化、所得制限の緩和でございます。これは今、知事も本当にご尽力いただきまして年収760万まででありますけれども、無償化、実質的な無償化を実施し

ていただきまして本当に感謝しておりますし、また私立高校に通わせている保護者の皆さんからもものすごく喜ばれておりまして、これは本当に良かったという実感しております。ただし、私たち当初目的としたのは900、世帯年収で約910万円までということでお願いしておりましたので、これは国の動向もふまえなきゃなりませんけれども、それをふまえながら是非910万まで、なるべく早い時期に実現していただければと要望したいと思っております。

次に10ページをお開きください。これは私立専修学校、真ん中辺にあります私立専修学校への新たな耐震化補助、それから私立専門学校への支援ですが、この2つにつきましては専修学校、専門学校というのは今まであまり焦点が当たらない、スポットが当たらない分野だったんですね。つきましてはまず私立専門学校へですけれども、これをつきましては耐震化工事、これをやっぱり遅れています。これを進めていただきたいと思っておりますので、東京都の支援というのをこれは考えていただきたいと思っております。それから専門学校の支援でありますけれども、これはあくまでもこの経営の透明性を確保するであるとか、それから授業力のアップであるとか、そういったものを念頭に置かなければなりませんけれども、それで外部人材とか起業家とのマッチング、こういったところにこの費用負担として東京都に支援をいただければまた大変喜ばれると思っておりますし、これが充実されていくと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。それから10ページの一番下ですけれども幼児教育の無償化について、これは幹事長から話が今ありましたので割愛をさせていただきます。

それから11ページ、真ん中辺の文化振興施策の推進であります。文化プログラムへの都民参画の推進、これは代表質問でも扱っていただきましたけれども、このオリンピックのスポーツの祭典であると同時に文化の祭典であるというこの趣旨をふまえますと、この文化プログラム、もう少しこの充実させなければならぬのかなというふうに思っております。身近にこの感じられる、身近にこの文化振興というものが感じられるような、親しめるようなそういった文化活動を都内全域で、東京都でやっていけば、またこのオリンピックに対する、パラリンピックに対する盛り上がりもまた進むかと思っておりますのでこの辺を細目について検討していただければと思っております。

次に13ページをお開きください。真ん中辺の「都内と被災地の子供たちの記憶に残る工夫」というふうに項目がございますけれども、今回の2020大会につきましては復興五輪ということも掲げております。これを具体化して、この復興五輪というのが具体化しているということが私たち都民にとっても私たちにとってもなかなか見えにくい現状だと思っております。従いましてまず一つですが、一つの具体例ですけれども、今まで被災地と東京の子供たちのスポーツ交流というものをやってまいりました。これは野球とサッカーとバレーボールで主にやってまいりましたけれども、この子たちを中心にしてせつかく東京都とのこの交流があったんだからこの子たちをオリンピックの競技に、パラリンピックの競技に招待するとか、そういった形で具体的に復興五輪というのが都民の皆さんにも実感できるような、そういった施策を展開していただきたいと思っております。

それから14ページを開けください。都市整備局関係ですけれども下の方、3分の1、下から、下のほうですけれども宅配ボックスの設置促進とあります。これはもう社会的なこの要請とも今なっております。配達する方、それから受け取る側も生活スタイルがもう昔と全然違いますのでこれは社会的要請ともなっていると思いますので、宅配ボックス、これは東京全域、例えば都市整備局関係それから交通局関係、この辺で整備を進めていけば社会的に広がっていくのかなと思いますので是非これをご検討していただきたいと思います。

それから17ページをお開きください。これは都営住宅関係でございます。2件、是非実現をしていただきたいということでここに盛り込みました。1つは上の方に書いてありますが、都営住宅での若年ファミリー世帯向け期限付き入居の改善であります。これは東京都も私たちも協力推進いたしまして実現したこの10年間の年限を区切った若年ファミリー世帯、子育て支援策の一環として主張しましてこれが実現して早くも10年以上が経ちました。その間、10年を迎えてこの退去しなければならないという方々が少しずつ出始めました。ところがこの10年目を迎えたけれども、義務教育年次、まだその子どもたちが義務教育の学年にいるという子どもたちも結構いるんですね。そうしますとそのお金がかかる若年世帯でありますけれども出なきゃならないという事態が今、発生してし始めておりますので、是非これは入居期限の延長であるとかそういったことをご配慮をいただければ、子育て支援の観点からも大事かと思っておりますので考えていただければと思います。それからその下の2点目でございますが、給湯設備の不公平な取り扱いという負の遺産の是正という項目を掲げさせていただきました。現在、都営住宅につきましては今、新しく改築された、それから新築された都営住宅、そういったところについては給湯器、それから風呂釜、風呂桶、これは全部始めからついております。で、古い建物でも新しく入居した方はこの3点セットで全部付いてますんで最初から困ることないんです。ところがこの都営住宅の最初から入っている方、それから古くから入っている方については、こういう制度もなかった時代は全部自分で給湯器も風呂釜も風呂桶も全部自分で用意しなきゃならなかったんです。そして現在この使っている風呂釜とかですね、風呂桶とか修理をしなきゃならない、取り替えしなきゃならないというふうになりましたら全部自腹なんですね。自分で負担しなきゃならないというふうになっております。ということでこれはの負の遺産として扱っていただいて、これは今、同じような扱いで対応していただければと思ひまして、これは是非とも実現をしていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

それから21ページご覧ください。災害対策の関係ですけれども、上の方に災害時への備えの万全化とあります。これは避難所に指定されておりました、それで官民の福祉、福祉医療施設、これにつきましてはこの給水管ですね、給水管の耐震化、これを重点的にやっていただきたい。それから応急給水栓も可能であれば要望があればそれを整備するような形でお願いしたいということがまず1点目です。それから2点目は、同じく福祉医療施設でありますけれども非常用電源、これがまだまだチェックが足りないと思いますので、非常用電源の確保、これを十分にやっていただきたいのと、それからBCPの作成で困ること

のないようにしていただきたいというこの2点につきまして、福祉医療施設関係、これは福祉避難所も含めてでありますけれども、そういった対応をお願いしたいと思います。それからその項目の4番に、4項目めに書いてありますけれども、備蓄品などが今まだ確認取れてないところも結構あるようでございます。こういった施設で備蓄品がどうなっているのか、これは是非実態調査をしていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それから次に28ページをご覧ください。これは受動喫煙の対策の関係であります。東京都の補助要綱、これはこれから作成、国の動きをふまえてこれから作成するわけありますけれども、これが出来次第、すぐにこれは対応とっていただきたいと思います。これからの喫煙ルームであるとか喫煙室、そういった整備が始まってまいりますし、その補助は知事からも明確に全面的に応援していくという答弁がありましたけれども、その辺のこととそれから補助申請であるとかアドバイザーであるとかそういった派遣、この細目に渡りますとこの現場ともこのトラブルとまでいきませんが、あの頃とは認識が違ったとかというのが結構あるものですから、そういったことの対応ができますように、円滑にこの事業が進んで受動喫煙対策が東京においては万全に進んだという、そういったことにしていきたいと思いますので、ぜひともこれは局の方でもいろんな担当局の方でも対応を万全でお願いしたいと思います。

それから30ページを開いていただけますでしょうか。真ん中より下です。救急災害医療を確立する項目です。災害に揃えた医療体制の充実でありますけれども、この災害、災害連携の方ですね、連携拠点病院。これについては非常用電源の確保、これは有識者による検討会が間もなく始まろうとしておりますけれども、これをなるべく早く結論を出していただいて本格的な補助事業が開始できるように、2019年度中にはだいたい必要な準備ができて、そして一斉にできるようにしていただきたいと、2020年に、2020年以降になりますけれども、それを万全にしたいと思います。それから意外と盲点だったのは一般病院なんですね。今まで災害拠点病院、それから災害連携拠点病院というのはスポットがあたってまいりましてこれから進められようとしていますけれども、一般病院というのも地域住民にとりましてはこれは同じ扱いなんですね。いざとなったらその病院に入ろうとか行こうとかというふうになりまして、この住民にとっては、都民にとって同じなんですね。それを、そうしますとその病院も同じような対応をしなければならぬという事態にもなっていくしますので、BCPの内容に関わるガイドラインを都としても早急に作成して、これを支援していただければと思いますので、こういった一般病院でもBCPの作成が進むようお願いしたいと思います。

最後でございますけれども、45ページです。警視庁と消防庁、東京消防庁の関係でございますけれども、これは専門分野というのは、これ専門家でないとは分かりませんが、2020大会に向けて、これは人員も当然ながら装備、専門的な装備もかなり必要かと思えます。従いまして、前年度になってからいざというときに再整備というのはもう遅いですか

ら、今から新年度の方からこの警視庁、東京消防庁関係の装備品については十分なまた配慮をしていただければと思います。

ざっと私の方から細目について説明をさせていただきました。検討の上、対応をしていただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

○司会（武市財務局長） はい、どうもありがとうございました。他に皆さん何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。では最後に知事から一言お願ひします。

○小池知事 大変都民の皆様が目線に立ったご要望をたくさんいただきました。と同時にこれからのこの新しい東京づくりという大きな観点からのご要望も頂戴をいたしました。厳しい財源の問題もございますけれども、より効率的に、そして都民の皆様方に実感のある首都東京、そして安心・安全な首都東京ということをしかりと感じていただけるような、そんな新年度予算を作り上げていきたいと思っております。どうぞご協力の程、引き続きよろしくお願ひいたします。

○司会（武市財務局長） はい、それでは以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（都議会公明党 退室）

○司会（武市財務局長） はい、どうもありがとうございました。東京都議会自由民主党の皆様でございます。どうぞお願ひいたします。まず要望書の手渡しと写真撮影をお願ひいたします。

（東京都議会自由民主党 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） はい、どうもありがとうございました。ではどうぞ、ご着席をお願ひいたします。お待たせをいたしました。それではこれより東京都議会自由民主党の皆様との来年度予算要望を始めさせていただきます。では冒頭知事からお願ひをいたします。

○小池知事 吉原幹事長を初め東京都議会自由民主党の皆様方におかれましては日頃より都政運営にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。また昨日の終了いたしました第4回定例議会におきましてもは様々ご協力を賜り、補正予算もおかげさまで通していただきました。誠にありがとうございます。また特に申し上げたいのは、平成31年度の税制の見直しかかりましては、東京都議会自民党の皆様方に多大なるご協力を賜りましたこと、改めて御礼を申し上げたく存じます。残念な結果ではございますけれども、しかし今後共都民の皆様方にしわ寄せがないように、様々な効率的なこの予算の使い方、そしてまた今回予算を編成するにあたりましては、何よりも2020年のオリンピック・パラリンピックの最後の、ある意味新年度予算っていうのは最後の準備の予算にもなりましようし、ましてや2019年ラグビーワールドカップはもう来年、年が明けますとそちらの方でかかりきりになる部分もございましよう。そしてまた来年は大変、改元などもございまして、様々な国家行事もございましよう上に選挙も続いてあるという大変忙しい年になろうかと思ひます。い

ずれにいたしましても東京にとりましては極めてクリティカルな、重要なそういう年を迎えるわけでございまして、それだけに皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げたく存じます。また都と国の間での協議会協議書式をお作りいただきまして、これをふんだんに活用することによって様々なインフラの面、それから都民の生活に密着している部分、国と連携して行うことが効果的なところなど、これからもしっかりと行政対行政、そういったことも含めまして進めていきたいと思っております。いずれにいたしましても自民党都連の皆様方のご要望をしっかりと伺わせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

○司会（武市財務局長） それではさっそくでございますが、吉原幹事長、どうぞ着席のまま結構でございます。どうぞ、お願いをいたします。

○東京都議会自由民主党 はい。今日は、小池知事にこういう機会を頂戴をいたしましてありがとうございます。私たちこの東京にとって、来年度予算というのは非常に大切でございますし、都民の皆さんも注目をされているんだろうと思いますので、しっかりとした予算を作っていかなければならないということはもう知事と同じ思いでございます。そうした中であって先ほどお話がございました法人課税の問題もでございますけれども、東京が国税として収めている、全国は60兆円ぐらい国税、国民の皆さん収めていただいているわけですが、私たちのこの都民の皆さんからも25兆円というね、大きな金額を国に収めているわけでございますから、そういう意味でいうと今回の法人課税のことについては私たちが納得しているわけではございません。これはもう知事とも同じ思いだというふうに思っています。当時、宮沢税調会長ともお会いをしてお願いを、我々都連の幹部の皆さん、そして都議会の自民党としての役員も一緒にお願いに行きましたけれども、その時は固定されたもの以外の6,000億以上はなんと東京都にお世話にならなきゃな、こんなお話を当時されておりました。まあそうした中であっての4,200が良いか悪いか、これは分かりません。これは国で決めることでございますので、私共の立場としては、しっかりと東京の状況を、お話をして、インフラもそうでありますしハードもソフトもそうでありますから、これからの私たちの東京が世界で1番になるためのまちづくり、都市づくりっていうのを、やっていかなきゃならない、そういうふうに思っています。

しかしながら、その中であつても、やっぱりその法制化された中であつて恒久的だといわれても、社会状況変化があつたときについてはまた見直しを図るといふふうに近い文言を入れていただいた、このことは大きな成果だなというふうに思っています。またそれとは別に、やっぱり先程お話もございましたように、国と東京都の実務者協議会を立ち上げていただくことになりました。これは昨日も菅官房長官、記者会見でもしっかりとお話をいただきましたので、そのことをしっかりと我々も意識をしながら、また執行機関の皆さんとどういったものを国に上げていくのかということも是非相談をさせていただきたいなと。そうした中であつて私たちの東京の課題というものを、国から協力いただかなければならないものもたくさんあるわけですが、そうしたものも幾つかは、しっかりと実現でき

るような環境を作っていきたいなというふうに思っているところでございます。そういう意味で今日は来年度の予算要望ということで、今日、お邪魔をさせていただいておりますので、細かい事については政調会長の方から、山崎政調会長の方からお願いをさせていただきたいと思っております。

○東京都議会自由民主党 改めてこのような機会を作っていただきまして誠にありがとうございます。先程、知事の方にはこの大きな冊子を提出をさせていただいておりますけれど、重点の方、何点かご紹介をまずさせていただきたいと思っております。

まず重点の項目1つ目でございますが、ラグビーワールドカップ、またオリンピック・パラリンピックの成功という形でございます。もちろんもう来年9月にはこのラグビーのワールドカップが開催をされ、そして2020年に東京大会オリンピック、パラリンピック、この準備作業がやはり早期に完了して、事前の準備期間を十分確保していかなくてはならないと思っております。海外からの来訪者も、その対応、また円滑な交通アクセスの確保、またセキュリティの充実、大会の運営に関して万全を期していかなくてはならない。また聖火リレー、そして事前キャンプ、観光客の誘致、こういったものを通じ、日本が、また東京が一つになって大会を盛り上げ、また大会後のしっかりとしたレガシーにつなげていきたい、そのように思っておるところでございます。

また2つ目でございますが、豊洲市場の開場に伴う諸課題、これの早期決着というか、そういったことでございます。10月11日に豊洲の市場が開場されました。この2年間、都政の不信感というものが非常に高まってしまったというのは、我々はそのように考えて、思っておるところでございます。安全・安心な市場であることをもちろん、国内世界にもしっかりとアピールをしていくと共に、市場のルール、これ豊洲と築地、築地から豊洲に変わった中での豊洲のルールというものが非常にまた築地とは違うルールが明確化されているものがあると思っております。こういったものを徹底して遵守をしてもらって実現をしてもらう、こういったことも是非よろしくお願いをしたいと思っております。

また市場会計の安定的な運用に向けた跡地の有償所管換えの件ですとか、大会後、東京大会後に先送りされております、今、千客万来施設、にぎわい施設でございます。この取り扱いなどの課題もですね、早急に解決をしていただきたい。これが2つ目であります。

続いて3つ目でありますけれども、都政改革についてでございますが、まあ工業用水道の廃止などの条例がこのように決定をされてきております。スピード感というのは大変重要であると我々も考えておりますけれども、財政面を含めた事業廃止の全体像をしっかりと明らかにしていただきたい。また31年度の予算審議の中で審議をしていくべきだと我々は考えております。またこどもの城の購入についてでございますけれども、このことも、我々都議会自民党、しっかりと、まずどういう使い道であるのか、そういったものが明確になっていない中での購入ということに関しては、やはりしっかりと我々も検討していきたいと思っております。周りももちろん付随しているその利用の部分との今のこどもの城、旧こどもの城の兼ね合いですとか、これが例えば国連大学等は、建物の、これからどのくらい

使われるのか、20年30年先になると恐らく思います。ですからそういった部分も含めて、この600億円近いお金をどうされるのか、購入をしていくのかいかなのか、こういったことも含めて、改めて我々もしっかりと検討していきたい、ですから東京都の小池知事の方にもしっかりとその辺は明確に、使い道に関してもしていただきたいことをお願いをさせていただきたいと思います。

また4番目でございます。予算執行のルールをふまえたことについてでありますけれど、今年、予算審議の30年度の予算審議の中で特別顧問の報酬等の予算案が計上されておりましたけれど、予算編成の重大な瑕疵があるとあるから予算に反対を今年はさせていただきました。その中で、その他にもLEDの電球の交換事業、こういったものも内容が非常に大幅に変更をされてきておりました。また先程の補正予算の中で、非常用電源設備、庁舎の非常用電源設備、こういったことも区市町村の絡む事業でありますので、来年どういふふうになるのか、区市町村がまたどういふ形になっていくのかというものが非常に東京都との話し合いがしっかりされているのか、今回は確か葛飾区1件だったと思いますけれど、この後まだまだ62の区市町村の中で37の区市町村が72時間対応以上されていると思いますけれど、それ以外のものはまだされていないと思います。ですからそういったところはこれからどうしていくのかということも含めて、しっかり東京都の方でも検討していただきたいと思います。適正な予算の執行についてよろしくをお願いをさせていただきたいと思います。

何点かお話をさせて頂きましたが、これからも都議会自民党としてですね、しっかり知事に対してもまた東京都に対して皆さんに対しても、予算のことですから、詳しくはこの中に含まれておりますので、後程で結構ですのでお目通しをいただいておりますので、またお願いしたいと思っております。私の方からはとりあえず以上でございます。

○東京都議会自由民主党 恐縮ですが、最後の1点だけ。今、山崎政調会長の方から要望にかかること、この中にしたためさせていただいておりますので、またお願いしたいと思います。

この中にも若干入っておりますけれども、私は三多摩なんですね。今日は島しょ1人、あと23区の皆さんなんですが、東京は地方の縮図だみたいなところも若干ありまして、決して三多摩格差があるというふうに思っておりません。しかしながら税制度が若干23区と三多摩と違うところがございますので、そういう意味で各市町村長を初めとする議会も含めて、総合交付金というのは大変期待をしているんです。前回知事の方で50億円という大きな金額をいきなりプラスされたわけでありましてけれども、今年の財務局に対しての、所管局要望っていうのがプラマイゼロなんですね。これ、知事の方で、どういふふうに見直しをされていくのかこのままなのか分かりませんが、大変市町村、各議会、大変期待をしておりますので是非今年同様によろしくをお願いいたします。

○司会（武市財務局長） では、よろしゅうございますか。はい、では最後に知事から一言お願いいたします。

○小池知事 はい。ありがとうございました。ご要望についてはしっかりこちら要望書89ページでございます。一つ一つ精査させていただき、そしてまた都民生活に対してプラス、かつ効率的な予算となりますようにこれからしっかりと編成にあたっていきたくて思っております。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○司会（武市財務局長） それでは以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（東京都議会自由民主党 退室）

○司会（武市財務局長） どうぞ、では、日本共産党東京都議団の皆さままでございます。どうぞ、まず最初に、では、要望書の手渡しと写真撮影、ご一緒にどうぞ。

（日本共産党東京都議会議員団 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。では、どうぞご着席をお願いいたします。それでは、これより日本共産党東京都議会議員団の皆様からの来年度予算要望をお受けさせていただきます。それでは、まず冒頭、知事からお願いをいたします。

○小池知事 昨日までの定例議会、誠にご苦労様でございました。補正予算も通り、また成立をいたしまして、さっそく来年の夏の暑さに備えるべく、迅速に対応してまいりたいと、このように考えております。また、平成31年度の税制につきましては、都の財政から多く収奪をするという結果になりましたが、しかしながら、これからは都は都民のための生活にしわ寄せが行かないように、効率的な予算の編成及びその執行ということに努めてまいりたいと考えております。

そしてまた、来年度は特に大きな、国家的な行事が目白押しであったり、それから、また消費税、皆さんはたぶん反対なんでしょうね、の話もございますし、そして、何よりも東京都にとりましては、ラグビーワールドカップ、そして、いよいよ2020年のオリンピック・パラリンピックと、いろいろな仕込みの最後の年度になるかと思えます。と同時に、その後のポスト2020で、2025年の超高齢化ということがもう明白になっている中におきまして、そちらもにらみながら都政を進めていかねばならない。よって、来年度の予算というのは大変基本的に重要な、そういう年度だと、そのことを言い聞かせながら、自らに、また都政全体に言い聞かせながら、新年度予算の編成にあたってまいりたいと存じます。その上で、本日、大山幹事長初めとする皆様方のご要望、しっかり受け止めていかせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○司会（武市財務局長） それでは、さっそくでございますが、大山幹事長、どうぞご着席のままで結構でございます。お願いをいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 着席のまま、失礼いたします。時間をとっていただきまして、ありがとうございます。それでは、まず最初にですけれども、ただいま渡させていただいたのは、2冊あります。重たい、大きいほうは、これが本体です。1ページ、表紙を開けていただきますと、来年度の予算編成に対する私たちの基本的な立場が書かれてい

ます。超高齢社会ということで、今知事もおっしゃいましたけれども、やはり超高齢社会への対応や貧困と格差の是正、そして保育園の待機児解消や、中小企業・小規模企業の振興、防災対策など、本当に東京には解決が急がれる都民の切実な要望が山積しています。また、政府の方針によれば、お話がありましたけれども、消費税の10%への増税、それからインボイスの導入、介護や医療など社会保障の切り捨て、そして負担増が目白押しです。さらに相次ぐ甚大な自然災害から、都民の安全・安心、そして命と財産を守るための災害に強い東京をハードでも、ソフトの面でも、両面で具体化することが緊急課題だと考えています。こうしたもとの、東京都には、地方自治体の本旨であります住民の命と暮らし、影響を守るために、暮らしの安心、そして安全最優先の予算編成が求められていると思っています。そのためには、外環道や大型客船埠頭などの不要不急の大型事業については、抜本的にメスを入れることや、不透明で大きくふくれ上がっている東京五輪の経費削減も急務です。という立場で、この多くの皆さんの、団体の皆さん、都民の皆さんのご意見を含めて、要望をさせていただいております。

次のページからは目次がございます。そしてこれ、すべての項目は、だいたい2,500項目となっておりますので、本日は重点的な要望について、清水政調委員長から説明させていただきます。その重点的な要望は、軽いほうの重点要望ということです。それでは、清水政調委員長からお願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 よろしくお願いいたします。重点要望は24分野にわたりまして、93項目あげさせていただいております。1番は市場問題です。豊洲市場は汚染対策や使い勝手の改善、業者への支援に全力をあげていただきたい。第三者機関で厳しくチェックする体制を作っていただきたい。築地市場のアーチ型建物の文化遺産としての価値に配慮して、解体工事を中止して保存を検討していただきたい。築地再開発について、仲卸業者の要望を踏まえて検討する約束を守っていただきたいということです。

2番の学校体育館へのエアコン設置補助の充実をとということです。単価の上乗せ部分の補助率を3分の2とするとということ。国庫補助に採択されなかった施設については、国の分も含めて都が補助していただきたい。区市町村の負担をさらに軽減していただきたいということです。

消費税率は、消費税増税は中止し、暮らしと営業を守るということで、税率10%の増税中止を国に求めている。もし消費税が増税された場合には、上下水道、都営交通料金の都民負担を増やさないようにしていただきたいということです。

次の、国民健康保険税の負担軽減の問題です。これは後で別の議員が説明をいたしますが、国保料は高すぎます。払いたくても払えない世帯が、都内で53万世帯です。保育園料の引き下げや減免、子どもの多い世帯の負担軽減などを実施していただきたいということです。

2ページの防災対策です。異常気象のもとで、防災行動計画の策定を、全自治体で作ることです。62区、区市町村中31地区で策定をされていますが、都として技術的、財政的な

支援をしていただきたいと思います。

次は3ページで、児童虐待防止対策、子育て支援の充実ということです。14、15、19とありますが、そのうちの20番です。旧こどもの城の跡地と建物の購入については、知事が既に表明しております。それについて、子どもの支援の機能を重視するよう求めさせていただきました。それに対して、前向きな答弁がありました。子ども、若者の演劇関係者などの声を聞いて、ぜひ検討をしていただきたいと思いますというふうに思います。

4ページでは、高齢者福祉、医療の拡充ということであげさせていただいております。3ページの下の方に、2万510円のシルバーパスの対象者に対して、所得に応じた中間の費用負担を新設すること、多摩都市モノレールなど都県境のバス路線などにも、シルバーパスを適用していただきたいと思いますというふうに思います。

それから4ページになりますが、都内で高齢者の人口が急増しています。しかし、高齢者対策では、十分な前進がありませんでした。そういう中で、知事は、今後は高齢者に的を絞って進めたいと発言されました。特養ホームなど、大幅な増設を求めていきたいといます。

それから、認知症の高齢者グループホームの整備についてです。2025年度末までの整備目標達成のために、年間1,200人分を必要とします。昨年度、約400人分でした。整備費補助の拡充が、どうしても必要です。国民年金で入れるように、家賃補助もしていただきたいと思います。

次は、障害者・難病患者の支援の問題です。30番のグループホームの運営費の都加算の見直しで、例えば重度障害者を中心に受け入れている事業者は、見直しで年間450万円もの減収となる予測がされています。現場の実態に見合った支援の拡充をお願いしたいといます。

次は、分野別の10番です。5ページ、保険・医療・看護の充実についてです。34番、都立病院は、直営を堅持して拡充をしていただきたいと思います。独立行政法人化などの経営実態のあり方は、中止をしていただきたいと思いますということです。

11番についてです。住宅の権利の問題、居住の権利の問題、保障の問題です。住宅施策の拡充の問題です。まず37番は、住宅局をぜひ復活をさせていただきたいと。居住の権利保障のための住宅施策拡充を推進していただきたいと思います。

38番、都営住宅の新規建設を再開するとともに、建て替え時に戸数を増やす必要があります。これは強く求めておきたいというふうに思います。

次に6ページ、この46番ですが、青少年・治安対策本部をなくして、青少年を専管に施策を推進する、そういう組織をつくっていただきたいと思います。これまでも繰り返し求めてまいりましたが、これをぜひ充実させていただきたい、青少年施策を充実させていただきたいということです。

分野別13番の47番です。これは、今度の議会で中小企業・小規模企業振興条例が成立をいたしました。私たちもこれまでも求めてきたところで、大変歓迎するものです。中小企

業予算を、抜本的に拡充をしていただきたいと思います。

次は7ページですけれども、7ページの分野別14番、教育条件の整備についてです。拡充についてです。52番は、小中学校給食費の無償化、そして53番は、小学校3、4年生、中学2年生の35人学級を早期に行なって進めていただきたいと思います。そして、計画的に30人学級を進めていただきたいと思います。

54番、小中学校での東京都独自の学力調査、統一体力テストを廃止することを求めています。国に全国学力テストの廃止を申し入れていただきたいと思います。

57番は、学校現場における働き方の問題です。1人1人の仕事が所定労働時間内で終わるようにすることが基本であることを明確にし、少なくとも月の残業時間が45時間を超えないようにすることを、早急に達成すべき目標として定めること。そのためには、どうしても教員増を行なっていただきたいと思います。変形労働制の導入をやめていただきたいと思います。

そして、分野別15、16、17とあります。そして18番、分野別で、魅力ある都立動物園にということで、シャンシャン、シンシン、リーリー、人気者になっています。種の多様性を守る上で、国際的な自然保護活動が大事なことを学べます。世界には様々な動物がいることを学ぶ重要な場所です。延長を望む声が高くなっています。中国野生動物保護協会との協定書で来年度で返すことになっていますが、返還期限の延期について、ぜひとも協議を行ってほしいと思います。

73番目です。上野公園のモノレールについてです。全国初で世界2例目、国内最古のモノレールです。懸垂式で日本唯一の型です。年間100万人が利用しています。運用経費は、運賃で回収できます。2001年製は更新時期を迎えています。宝くじ事業から車両建設費の満額2両で4億円も受け取ってきましたが、事業仕分けで、この資金の公共事業への分配がなくなっています。しかし、維持、存続をしていただきたいと思います。

次は、多摩、島しょ地域の格差の解消です。分野別20番です。

76番は、市町村総合交付金を、大幅に増額をお願いしたいと思います。

80番、多摩格差の1つである監察医制度について、代表質問では、充実を検討していると表明をされました。歓迎するものです。ぜひ前に進めてほしいと思います。

82番です。五輪経費の大幅削減、そして透明化を進めていただきたいと思います。

また、水道局談合問題では、86番、不祥事が続発する構造的問題に抜本的にメスを入れるためにも、ぜひ都幹部職員の天下りをやめる方向で見直していただきたいと思います。

そして23、24と、不要不急の大型開発の見直し、そして24番、オスプレイの配備反対、米軍基地返還と。以上で、24項目ありました。重点要望の説明を終わらせていただきます。

○日本共産党東京都議会議員団 それでは、ちょっと具体的に2人から補足的に発言させてください。まず、とや議員、お願いします。

○日本共産党東京都議会議員団 どうもお世話になっております。練馬区選出のとや英津子です。私からは、今回補正予算に入りました学校体育館へのエアコンの設置について、実状について、あるいは、私どもの考えを改めて述べさせていただきたいと思います。知

事は、区市町村立学校の体育館について、今回、補正予算約82億円組んでいただきました。私どもとしましては、今年の夏の暑さが災害級であるとして、知事にも申し入れを行い、学校体育館へのエアコンの設置を求めてまいりました。心から歓迎をしたいと思いません、今回の補正予算。一方で、知事は練馬ですので、ご存じのように、大きな自治体であります。ここは90カ所以上の体育館がございまして、練馬では、100%設置するのに7年計画にせざるを得ないという現状があったり、あるいは、複層式にすると4,000万から5,000万かかる。設計だけでも1年かかる。こうした他の自治体からの実態が寄せられております。私どもは、避難所でもある体育館のエアコン設置は急務であるとして、今定例会でも尾崎議員が代表質問で、多摩地域を初めとする自治体の現状をお話しさせていただきました。23区と比較して、体育館の面積が大変大きい。一気に全校にエアコン設置を進めるのは、財政的に厳しいという声も紹介させていただきました。島しょ部のお話もありまして、利島の議員さんからは、国からの補助、都の3分の2の補助が確実になければ、検討すらできないという声もあります。調査1つするのも、島の外から人に来てもらわなければならないと進まないなど、島ならではの困難もあるということをお訴えられております。今回、知事は、来年度以降、3分の2の補助率の延長については検討をされるとお答えになっていきます。一方、3年間ではすべての体育館に設置ができないという現実もございまして、この2つの課題については、ぜひクリアしていただきたい、期間の延長をお願いしておきたいと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

○和泉なおみ 葛飾区選出の和泉なおみです。よろしくお願いいたします。私からは、国民健康保険のお話をさせていただきます。全国知事会は、国保料の負担が限界に近づいていると、こういう認識をされましたというのは、非常に重要なことだというふうに考えています。この認識に立って、国保、言うまでもなく、医療需要が高くて所得が低いという方が多く加入しているという国保の構造的な矛盾の解消のためには、低率の国庫負担を増やしていく、ここが重要なんだという認識を全国知事会が示しました。知事は、さきの定例会で、国保の財源は保険料が2分の1、そして公費負担が2分の1というふうに答弁されましたけれども、この公費2分の1のうち、国の負担している部分を根本的に引き上げて、そして、保険料2分の1の部分を、負担を和らげていかないと構造的矛盾が解決できないんだという認識を、全国知事会が持っているということだというふうに思っています。ぜひこの立場で全国知事会との連携にあたっていただきたいということを、まず初めに要望したいと思います。

あわせて、所得のない子どもにまで保険料が賦課されているという均等割り保険料の負担軽減も、全国知事会は求めています。23区で言いますと、平成11年は2万6,100円でした、1人当たりの均等割り保険料。これが、平成30年には5万1,000円にまで上がっています。私の知り合いも、8月に子どもが生まれて喜んだのもつかの間、9月に保険料増額の通知が来たということで、子どもを産むことが改めてこんなに負担が増えるのかということをお思い知らされたというふうに語っていました。住民税や所得税がかからない、そういった

非課税の世帯でも、国民健康保険料だけは、この均等割りがあるためにかかってしまうんです。たとえ最大限7割減免されたとしても、4人世帯だと、その負担は年額6万円を超えてしまいます。国に要望することももちろん重要なんですけれども、消費税にしても、国民健康保険にしても、制度が都民を苦しめているならば、その苦しみを和らげる、これも都が最も大事にしなければいけない仕事だというふうに考えています。都が均等割り保険料の負担を軽くすることに直接役割を果たすことができる、これは、私たちがこれまでも条例提案や委員会の質疑などでお示ししてきました。来年度、東京都が示した標準保険料率などを持ちますと、相当大きな値上げになるということも予測をされている中で、東京都が財政運営に責任を持つ保険庁となった、その責任をしっかりと果たして、都民の負担を軽くする、来年度の値上げを最小限に抑える、あるいは引き下げていく、このことに東京が積極的な、都が積極的な役割を果たしていただくよう、そして、所得のない子どもたちの保険料、これはぜひとも軽減をしていただくよう、重ねてお願いしたいというふうに思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 それでは以上ですので、知事のコメント、よろしくお願い致します。

○司会（武市財務局長） では、よろしくお願い致します。いろいろ仕切っていただいて、ありがとうございます。

○小池知事 仕切られてしまいました。本日は貴重なご意見、承りました。ご要望については、年明けからの査定をさせていただいて、1つ1つ判断してまいりたいと思います。また、2月中旬から第1回定例会が開かれると思いますが、皆様と建設的な議論を積み重ねて、先ほども申し上げましたように、次の新年度の予算というのは、本当に東京にとって大変重要な予算となりますので、皆様方としっかり良い予算をつくり上げていきたいと、このように考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○司会（武市財務局長） では、以上をもちまして、終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（日本共産党東京都議会議員団 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。どうぞ中のほうへお願い致します。都議会立憲民主党・民主クラブの皆様でございます。では、最初に写真撮影をどうぞ。どうぞ周りを。

（都議会立憲民主党・民主クラブ 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、どうぞご着席をお願いいたします。お待たせをいたしました。それでは、これより都議会立憲民主党・民主クラブの皆様からの平成31年度予算要望ヒアリングを始めさせていただきます。では、まず冒頭、知事からお願いいたします。

○小池知事 昨日までの定例議会、誠にご苦勞様でございました。おかげさまで補正予算

につきましても、また、中小企業・小規模の企業の促進という条例も成立をさせていただきました。中村幹事長を初めとする皆さま方には、日頃からの都政へのご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。平成31年度の、いわゆる税制の改正ということで、今回、東京都の財源が大幅に収奪をされるという結果になったわけでございますが、来年度の予算につきましても、オリンピックがらみ、最終的の仕込みの時期になりますし、更には、その向こう側の2025年の高齢化、これをにらんで非常に重要な予算編成となろうかと思っております。それだけに、皆様方のご理解、ご協力をよろしく願いますと同時に、皆様方からのご要望をヒアリングさせていただくということでございます。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） それでは、中村幹事長、どうぞご着席のままで結構でございます。よろしくお願いいたします。

○都議会立憲民主党・民主クラブ それではまず、こういった機会をいただきまして、ありがとうございます。また、昨日までは定例会のほうもお疲れ様でした。私たちも、中小企業・小規模振興条例であるとか、補正予算の内容なども提案もさせていただいておりましたので、知事から提出された議案には、すべて賛成もさせていただきました。また、来年度は、今の国の税制大綱のお話もありましたが、9,000億円というお金が収奪されたこともあって、これ、より一層、都のほうでも改革を進めて、都民サービスへの影響を最小限にしていかなければなりませんから、その点を求めさせていただきます。

今、景気が良くなったかのようには言われていますけども、都民からは、なかなかその実感が伴わないという声も聞こえてきます。私たちは分厚い中間層の形成をしっかりとやるべきだと訴えてきましたが、来年度の予算の中では、子どもから高齢者までが、誰もが安心して暮らせる、まじめに働く人が報われる社会を作っていただけるよう、取り組んでいただきたいことをお願いいたします。詳細については、この後、宮瀬政調会長からご説明いたしますが、こうやって私たち、少人数の会派ですので、その後で議員1人1人からも重点課題をお話しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○都議会立憲民主党・民主クラブ では、よろしくお願いいたします。要望の1番目が、やはりがん対策と。都民死因1位が3万4,000人亡くなっておりまして、1日当たり93名。都に予算を確認しましたら、わずか8億円しかないという状況です。そういった状況の中で、早期にがんが発見できます。今日、ちょっとパネルを持ってきたんですが、このように上がステージ1なんですけど、早期で発見できると、当然長生きできると。こういった状況の中で、国立がんセンターが、血液1滴でがん13種類が分かる新技術を経産省の支援のもとできまして、担当責任者に聞いて、今日特別に出していいと。これが発見率、ステージ1、ステージ2で分かる、13種類書いてませんが、ほぼ99とか94%。杉並区でも問題になりましたが、がんの早期の発見って、大変難しいと。しかし、こういった新技術がある中で、先生のほうに課題は何ですかといったところを言いますと、これをどう世に出していくか、広めていくかというところだと聞いています。鹿児島県では、保健総合センタ

一で人間ドッグにもう組み込んでいますし、山形県、福井県も同様、国立がんセンターと提携していると。その中で、ぜひ東京都も東京都がん検診センター、都立病院、公立病院と先鋒を組みたいということもおっしゃっていますので、ぜひ都民死因第1位のがんの取組、今、検診率3割しかありませんので、将来的には検診率7割の健康診断に組み込んでいただければいいなあと考えております。唾液ですとか、尿ですとか、様々な検査がありますが、発見できるがんの種類が少ない、また発見率がそんなに高くない。また、本プロジェクトは何よりも経産省のお墨付きで、国立でのセンターのことでありますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、情報公開でありまして、支払先が月間70万件、支払い情報として出ていますが、支払先が出ていません。ぜひ支払先、個人情報を除いてオープンにしていきたいなあと考えています。局に確認したら、月間400PVしか見てないそうでありまして、みんな、支払情報でいうと、支払先も知りたいのではないかと。不正や癒着の防止にもなると思っております。また、これは毎年、予算要求概要って、各局が出している資料、ホームページにアップされているものですが、実は、私ども、決算の委員会でいただいているこの決算説明書というのが、ホームページに公開されていません。ぜひ予算と決算をあわせて、支払先もあわせて公開していただければ、都民の透明性、チェック機能も働くと思っております。

次に防災であります、やはり都民がどこに逃げればいいのかというのが、まだ明確ではありません。江東五区の大洪水の想定もあります、いつも議論、議論ばかりで、実際にどれぐらい避難が必要で、今どれぐらい避難所が確保できているのかというのが、いつも推計中なので、これはもう毎年の災害でありますので、急いでいただきたいと考えております。

私からは最後になりますが、都営住宅の倍率が60倍になっていまして、知事、ご存じないかもしれませんが、落選されている方、13万人も毎年います。都は都営住宅を増やさないという方針なんです、空き家対策をやっていきますと。議会答弁に出ましたが、空き家の解消で、年間解消した件数、6件しかないんです。また、家賃低廉化補助も緒に就いたばかりで、実績0件。こういった状況の中で、行き場のない方がどんどんこれから増えていってしまいますので、家賃低廉化補助の制度の改善と、あとは、予算規模も、今の予算規模だと13万人落ちているんですが、わずか500世帯しか入れる予算規模もなく、実績も今0件ということなので、子育て家族や単身世帯も活用できるような、私ども、住宅バウチャーとよく言っていました、ぜひ改善を図っていただきたいと思います。また、封筒の中に団体要望も載せさせていただきました。ご確認いただければと思います。では、次、各議員からお願いします。

○都議会立憲民主党・民主クラブ 私からもう1度、すみません、個別の要望ということで、22ページのほうのオリンピック・パラリンピックについて、少しお話をします。知事からも先ほどお話がありましたが、2020年大会、成功ということは当然だと思っているん

ですが、いろんな温度差のある都民の方もいらっしゃいますので、平和の祭典ということ  
を強調していけば、これは誰もが否定するものではないと思っています。そもそも都には、  
平和の日を取り扱っている部署があるんですが、平和そのものを扱っている部署がないの  
で、こういう措置が必要だと思っているんですが、改めて東京オリンピックの日付を見て  
みると、7月24日から8月9日です。担当の方と話しても、忙しいと思うので、なかなか  
日付の意味までお考えになっていないようなんですが、8月9日というのは、日本にとっ  
て大事な、長崎の原爆の投下の日です。期間中に、8月6日の広島の日もあります。世界  
中から注目されるイベントが同じ日に、特に閉会式の日には、午前中に長崎で式典があっ  
て、午後にはオリンピックの閉会式ということで、世界から見れば別だというものではな  
いんでしょうから、こういった点で、唯一の被爆国である日本の首都である東京から、オ  
リンピックという世界の平和の祭典が、世界に平和の尊さを呼びかけるような式典にして  
いただけるように、今から準備していく必要があると思いますので、ぜひ来年度の予算の  
中でも、こういったことをお考えいただければと思います。以上です。

○都議会立憲民主党・民主クラブ 続いて、山口から読ませていただきたいと思います。  
14ページ、働き方改革と産業振興を進めるの中から、中小企業振興条例を踏まえた公正な  
取引慣行の実現と雇用労働対策の拡充について、お話しをさせていただきたいと思いま

す。アスタリスクをさせていただきました1にある、公労使による就業支援のあり方の検討。  
また、先日11月29日にありました有識者会議でも、条例制定に向けた検討が打ち出されて  
おりましたが、この条例化も含めて、障害者や一人親、引きこもりなど、働く意欲があり  
ながらも就労ができない人たちの就労支援、労援をするための施策の拡充に取り組んでい  
ただきたいと思います。

また、アスタリスクの2の働き方改革の推進に向けた企業数の拡充も、あわせて要望さ  
せていただきたいと思います。

また、次のページ、15ページの上から5行目になりますが、アスタリスク1には、中小  
企業振興基本条例の制定を踏まえた要望を記載させていただきました。条例の提案、制定  
には、感謝申し上げる次第でございますが、代表質問でも申し上げたとおり、中小企業が、  
条例ができて良かったと実感ができるように、中小企業に対する実態調査を実施し、下請  
けいじめの是正に取り組んだり、下請けセンター東京の体制強化などを要望させていただ  
きたいと思います。以上であります。

○都議会立憲民主党・民主クラブ 練馬の藤井ともりでございます。知事におかれまし  
ては、いつも地元で大変お世話になりまして、ありがとうございます。私からは、子育て  
と教育について申し上げたいと思います。子育てのほうなんですけど、都は2019年度におい  
て、待機児童ゼロを目指されるということでございまして、本当に1点足りないだけで保  
育所に入れないという方のお声も多々いただく中で、大変すばらしい取り組みだなあとい  
うふうに期待をしているわけでありまして。

一方において、国において、今回、保育の無償化ということで、普通に考えれば、保育

所に入りたいという方がどんどん増えてくるということも考えられまして、それ自体は決して悪い話じゃないんですけども、一方で、待機児童の問題が、都のゼロという政策との相反するような状況が起きかねないということをございまして、認可保育所に入れなかった方に対する認証保育所の補助とか、あとは、都として行っているベビーシッター助成、こういったものをしっかり行っていただきまして、不公平感の解消、受け皿づくりをぜひお願いをしたいと思います。

もう1点なんですけど、こちら、私立に通わされている保護者の負担軽減の話なんですけど、年収760万円までの補助を行っておられるということをございます。私、子育て世代に対する費用負担の軽減という意味においては、非常にすばらしい政策だなあと思っているんですけども、一方では、それはもうばらまきなんじゃないかとか、それ相応の効果が十分見込めるのかというような声もあることも事実をございます。これ、提案なんですけども、これらの私立学校において、しっかり学校評価を行なっていただいて、学校評価を通じての情報公開、これもあわせて行っていただいて、一定以上の教育の質、そして授業の質というものを担保した上で、都税というものを投入していただくということをお願いしたいというふうに思います。以上、2点、私からお願いをございます。よろしくお願いいたします。

○都議会立憲民主党・民主クラブ 私から、まずホームドアの整備についてと混雑解消をということをございますけど、ホームドアの設置に関しては、これはもうどの会派も、もうホームドアをつけましょうということは言いますし、東京都もこれまでもやってきてますよということではありますが、2020大会を前にしたこの時期に、加速度的にぜひ設置を進めていただきたいという要望をございます。これを取り上げたもう1つの機会、10月17日の都政改革本部の見える化改革の中でも、「ホームドアについて」が取り上げられていまして、低コスト化などの新技術の情報提供による整備スピードを加速するという議論が、都政改革本部でもなされたところでもあります。この先には、都市づくりのグランドデザインと整合性を加えて、グランドデザインは2040年代のビジョンですから、かなり先を見据えるわけではありますが、ここで、都営交通は進んでますけども、それだけじゃなくて、私鉄ですね、都市整備局と一緒に一気に進めてもらえるように、ホームドアの設置、整備をお願いしたいというふうに思います。

ホームドアの設置は、毎年、予算も組まれてますけども、そもそも平成18年のときに、10年後の東京実行プラン、平成18年の10年後なんで、平成28年には都内すべての駅にホームドアを設置するというような話があったにもかかわらず、それが進んでいないのが現状です。ですので、絵に描いた餅ではなくて、ホームドアの設置、ホーム柵の整備など、などに線をつけたらとか、内方線をつけているから、それが含まれてるんだというような答弁があったんですけど、そういうのではなくて、やはりホームドアを作っていくということが極めて重要だと思っています。

昨日の議会では意見書も通りまして、駅ホームにおける安全性向上対策の加速に関する

意見書ということで、これ、ホームドアの整備を進めましょうという議会の意志でもございます。ここには技術開発に対する支援などを行なうことということで、議会としてもこれを進めていこうと思っておりますので、ぜひこのホームドアの整備を、さらに来年度の予算で進めていただきたいということでございます。

加えて、都市づくりのグランドデザインとの整合性の中で、混雑解消、知事の公約では、満員電車を0にすると以前取り上げさせていただきましたけれども、都営交通は頑張っているというようなことがありましたが、そもそも目標というものが、まだ満員電車の定義というものが定まっていないところもございますから、改めてここのしっかりとビジョンを示して進めていただきたいということを要望させていただきたいように思います。私からは以上になります。

○司会（武市財務局長） よろしいですか。それでは、最後に知事からお願いをいたします。

○小池知事 それぞれの、これまでもずうっとたぶん公約として、先生方、お一人お一人が掲げておられる、それらのことについても盛り込んだご要望書をいただきました。この後、年が明けますとすぐ査定にも入るわけでございますので、1つ1つ拝見させていただいて、判断させていただいて、そして、より良い予算に、ともに作り上げるような、そんな予算にしていきたいと考えております。ホームドアの件、いつも電車の件、ご質問もいただきありがとうございます。ぜひ、やっぱりいろんな乗り入れがどんどん新しく加わったりしていることも1つのポイントかと思いますが、やはり都市の交通の中において、公共交通がこれほど進んでいる都市はない中において、ホームドアと、それからエレベーターの設置を、1本だけじゃなくて両方にしてもらおうことであるとか。それからあと、サテライトオフィスもそれぞれ鉄道会社のほうのご協力を得てできること、あれもこれもということですが、ぜひより快適な東京都、それから、それはすなわち働き方改革や生産性の向上につながっていくというふうに思っておりますので、そんなことも含めてしっかりと考え、また、議会のほうでは議論を重ねていきたいと思っております。ほかの皆さま方のご要望、1つ1つしっかりと判断させていただこうと、このように思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○司会（武市財務局長） それでは、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（都議会立憲民主党・民主クラブ 退室）

○司会（武市財務局長） 維新・あたらしい・無所属の会の皆さままでございます。では最初、要望書からお受けさせていただきます。

（維新・あたらしい・無所属の会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） ありがとうございました。では、どうぞご着席をお願いいたします。では、これより維新・あたらしい・無所属の会の皆さまからの来年度予算要望をお

受けさせていただきます。では、さっそくでございますが、お願いしてよろしいでしょうか。では、よろしく申し上げます。

○維新・あたらしい・無所属の会 きょうはお忙しい中お時間をいただきまして、ありがとうございます。毎年申し上げているんですけれども、今日、知事はいらっしゃらないんですか、知事は。本当に残念だなあというふうに思います。私たち、少数会派ではありませんけれども、後ろには多くの都民の皆さまがいらっしゃって、知事は団体要望等々、かなりの時間を割いて聞いていらっしゃるというふうに聞いています。その中で、私たち少数会派の意見は、直接は聞かないというのは、これはおかしいことだというふうに思います。ぜひ知事にそのことをお伝えいただきたいと、お願い申し上げたいというふうに思います。はい、ありがとうございます。

ちょっと1枚目をおめくりください。時間がありません。中に入りたいと思いますけれども、私たち、毎年の予算要望のやり方、これにちょっと違和感を感じておりまして、ほかの会派とは違ったやり方をやろうじゃないかということ、今年は考えてまいりました。何を考えたかということ、さまざまな要望項目をただひたすら並べて、それを皆さんにお願いをして、そして、その予算がついた、ついてない、それが都政の手柄なんだと、こういったことをやるのは古い議会なのかなあというふうに思いまして、私たちの考える東京のビジョンと、今何が必要なのかということをお伝えさせていただきたいと、そういう会にさせていただければというふうに思っております。

1枚目、おめくりください。ここに全部集約されているわけでありましてけれども、少子高齢化、都市の老朽化、それからライフスタイル、価値観の多様化、これが今の東京の抱えている大きな課題だろうというふうに考えております。これに東京がどう対応していくのかといえば、私たちは分権、これは区市町村への分権という意味であります。それから、さまざまな東京都の持っている事業の民営化、民間活用、そして規制緩和、この3点が重要だと考えています。それがかなった東京の姿、それを私たちは東京3.0というふうに仮称で呼ばせていただいているところです。これは、非常に機能する東京、成長し続ける東京でありまして、東京が今、去年から今年にかけて、築地市場の問題がありました。これは大事なことはあるんですけれども、こういったことに時間をかけすぎているんじゃないかというふうに思います。東京のやるべきこと、都が本当に集中しなければいけないことって、もっともっとあるだろうと。それは、成長し続ける東京をつくり上げることだというふうに考えておりますので、そういう都がやるべき本来の課題に対応できる東京、それが東京3.0であるということでもあります。そして、それを実現するためには、小池知事もおっしゃっているとおり、情報公開、それから機能する議会、これが私たちのことではありませんけれども、議会が機能しなければいけない。そして、テクノロジーの活用と、この3つをしっかりとやっていくということが大事なんだと、このように考えているところでございます。これが私たちの会の目指す、東京の骨太の方針と。骨太過ぎて何のこっちゃと思われるかもしれませんが、この詳細を、音喜多政調会長からお話をさせていただきます。

たいと。そんなに詳細じゃないですけども。お願いします。

○維新・あたらしい・無所属の会 ということで、幹事長がつくった無茶ぶりを受けて、私のほうで、ちょっと少しだけ…、その次のページは、今柳ヶ瀬から申しあげましたので飛ばしていただいて、4ページ目から。少子高齢化、都市の老朽化、多様化という都市の課題については、今さら釈迦に説法でございますけれども、今、これから東京都というのは、これまでにない問題に直面していく、総人口の、生産年齢人口の激減であるとか、あるいはインフラの老朽化、それに伴い、さらに、そこから外国人労働者であるとか、LGBT、そういった価値観の多様化というのも進んでいるというのが、これは共通の課題として皆さん、お持ちなところだと思います。

こうしたものに直面して、我々どうあるべきかというところが、次のページのところに行くんですが、進んでいただきまして、我々は、都庁というのは、これから何をやるかよりも、何をやらないかということを考えていくフェーズに入っているんだと思います。基礎自治体への大胆な権限移譲をして、都庁の役割は再上限にしていくこと。先般も、こども城のような議論もありますけども、福祉機能というのは、基礎自治体が負うもの、あるいは民間が負うものでありますから、そういったものは都庁からどんどん切り離していく。そして、民間でできるものは民間で、下水道のコンセッション方式というのが、都政改革本部のほうから画期的な提案がなされたこともありますけども、やはり下水道事業、水道事業、特に公営企業はお金を生み出す装置でありますから、こういったものをどんどん民間に任せていく。

そして、規制緩和というのは、いわゆる産業支援とか、都市の経済というと、やはり中小企業にお金をつけますとか、補助金を出しますと、そういった話になりがちなんですけども、これからの時代はそういうことではなくて、逆にスタートアップ企業が、いろんな規制があって、手続きが煩雑で、そういったものを無くしていくと、立ち上げやすくしていくことをサポートすることが行政の役割であって、何もお金をついたり、行政が丸抱えしたり、ビジネスコンテストをやるのが、そういう支援ではないだろうと我々は思っておりますので、こういったことがうまく機能していくことで、東京3.0、自立した東京というのが生まれていくのだらうなあとというふうに思っております。

最後のページに、そういった理念を実現するために何をしていくべきかということ、シンプルに3点だけ述べさせていただきました。まずは、徹底した情報公開ですね。今、見える化改革ということで、小池知事を先頭にやっておられますが、まだまだ不十分であるという声が届いております。そして、特に知事意志決定過程ですね。外部の会議は、市場にしても、あり方検討会だとか、関係局長会議、公開はされてきましたけども、なかなか政治決定の意志過程が見えてこないとか、あるいは、行政情報が持っている、オープンデータというのが今言われてますけども、こういったものを活用して、行政が持っている情報をどんどん、どんどん出していったら民間に活用していただかなければいけないと。

2点目は、機能する議会は我々のお話ですけども、我々もいろんな提案をしていかな

やいけないという中で、最後はテクノロジーということで、やはりまだまだAIやIoT、こういったものの活用が、東京都、特に都庁の内外を含めて活用されておりませんので、そういったことを活用していただきたいと。前例とか、いろんな規制ルールにとらわれずに、まずは東京から先進医療を作っていくということが重要だと思っております。

この情報公開とテクノロジーという、この2点が、本当にシンプルにこれだけなんですけども、なぜこれが重要かという、情報公開をして、そして、テクノロジーでこれは代用できる、あれはできるということが分かってくれば、都庁の役割というのは、結局、少ししか残らないということが明らかになるわけですね。そこがすべてのスタート地点で、残った最小限のところをいかに都庁はやっていくかというのが、この21世紀の課題だと思いますので、まずは情報公開、そしてテクノロジーの徹底した導入、これをぜひ執行機関が一丸となって進めていただきまして、我々が目指す東京3.0とともに近づいていければと思っております。私からは以上です。

○維新・あたらしい・無所属の会 今、音喜多政調会長から申し上げさせていただきました。1点、具体的な点を申し上げさせていただきますと、ここに書いてある我々の目指す東京のビジョン、実現に近づくかなあと思ったのが、先般、質問でもさせていただきましたけれども、2020東京改革プランであるというふうに考えております。今年の3月に発表されたときには、これはすばらしい改革になるなというふうに、大変期待をさせていただきました。ただ、その後、この見える化を中心とした各事業のユニットを今されているというふうに思いますし、来年の1月には、これ、バージョンアップされるということでもありますけれども、ちょっと本来の見える化の主旨と変わってきているのではないかと、この点を、非常に危惧をしております。ぜひこれがすばらしい改革プランになるようにしていただきたいということ、これを最後に申し上げさせていただいて、私たちからの訴えとさせていただきますというふうに思います。ありがとうございました。

○司会（武市財務局長） 要望というか、ご提案をいただいた形になりました。では、副知事のほうから一言。

○長谷川副知事 今日貴重な、しかも骨太なお話を賜りました。いただいたお話については、知事にもしっかりとお伝えして、年明け早々から始まる知事査定の中でも参考とさせていただきます。判断してまいりたいというふうに思います。1月下旬には、予算発表ということになりますけれども、当然ながら、都議会各派の皆様方には、事前にご説明をさせていただきます。その後、2月中旬から始まる第1回定例会におきまして、改めて皆様と建設的な議論を積み重ねて、より良い予算をつくり上げていきたいというふうに考えております。今日は貴重なお話、どうもありがとうございました。

○司会（武市財務局長） では、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（維新・あたらしい・無所属の会 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

(都議会生活者ネットワーク 入室)

(要望書手交)

○司会 (武市財務局長) どうもありがとうございました。それでは、どうぞご着席をお願いいたします。それでは、これより都議会生活者ネットワークからの来年度予算の要望をお受けさせていただきます。では、山内先生、どうぞよろしくをお願いいたします。

○都議会生活者ネットワーク 都議会生活者ネットワークの山内れい子です。きょうはありがとうございます。2018年を振り返りますと、目黒区の5歳の子どもが虐待で亡くなるという痛ましい事件や、生後間もない乳児が死体遺棄される事件等が起きました。少子化の中で、せっかく生まれた命をなんとか守りたい、生きる力を育みたいという思いで、都議会生活者ネットワークは「人」への投資、特に、子ども・若者への予算をしっかりとつけていただくことを第一に掲げました。お手元の2019年度予算要望の重点項目からお話しさせていただきますと思います。

3ページをご覧ください。子ども、若者を応援するという項目の1番に、仮称「東京都子どもの権利条例」の制定を上げました。2019年は、子どもの権利条約に日本が批准して、ちょうど25年の節目を迎えます。これまで生活者ネットワークは、子どもの権利条例の制定を求めてきました。この25周年、子どもの権利条約からの25周年を機に、子どもの命を守り、学びや育ちを応援する子どもの権利条例を、子ども参加で実現するよう取り組んでいただきたいと思います。地域では子ども食堂などが広がっていますが、子ども・若者を取り巻く社会は、虐待、いじめ、貧困、国籍や障害の有無による差別など、生きる意欲ややり直す意欲を失わせる崖っぷちに立たされているような困難を強いています。子ども・若者の育ち、自立を応援する施策の充実が重要だと考えております。

具体的には、子ども・若者を応援する2番の、引きこもり状態の人への訪問相談の充実です。8050問題が深刻になっているように、引きこもりが長期化して、無職のまま、親は高齢化して、引きこもり状態の子どもの暴力におびえて支援を求めている、あるいは、さらには、親の死後に社会復帰できずに生活困窮になっているという現状があります。引きこもり状態の本人と、その家族への支援が必要です。訪問相談の回数を増やすとともに、当事者で社会復帰したペアサポーターの方を活用することで、引きこもっている状態の方が、自分が一步を踏み出す道筋をどんなふうになるんだろうと描くことができるというふうに話を聞いたことがございます。支援団体の方から聞いております。訪問相談の充実を求めます。

3番目にあります、少女たちが犯罪、JKビジネスに巻き込まれないように、居場所や相談窓口、シェルターを継続できるよう支援するという点ですが、東京都では、若者被害助成と支援モデル事業が、2018年度から始まりました。補助率は国10分の10、実施主体は東京都で、民間委託しています。困難を抱えている少女たちが、支援につながる前に、路上やインターネットで犯罪やJKビジネスに巻き込まれないようにするために、現場で支援している団体と連携をして、居場所や相談窓口、シェルターを継続できるよう、こう

した事業を拡充していただきたいと思います。

また4番目の、予期せぬ妊娠や10代の妊娠などの相談に対応するために、妊娠相談ホットライン、これがございますけれども、広く周知するとともに、医療等の他機関につないで支援を充実させることが重要です。日本では、予期せぬ妊娠や10代の妊娠に対して、自己責任論を振りかざす風潮がありますが、学校等で正しい性教育が受けられない現状で、自己責任と追いやるのはあまりにも苛酷だと思います。児童虐待死が最も多いのは0歳児という、厳しい現実にもしっかりと向き合う必要があると思います。

熊本の慈恵病院に、SOS赤ちゃんとお母さんの相談窓口、「こうのとりのゆりかご」が設置されてから10年、130人の命を救ってきたと聞いております。困難を抱え支援の必要なお母さんを支え、赤ちゃんの命を助け、愛情いっぱいの養親で育つ、都立病院に東京版こうのとりのゆりかごをつくって、子どもの命を守る、特別養子縁組につないでいく体制をぜひ作っていただきたいと思っています。

次に11番ですが、子どもが祖父母や親、兄弟等の家族の介護のために、学校に行けなくなったり、欠席が多くなったり、部活ができなくなったり、受験をあきらめたりする現状というのがございます。家族の世話をするのが当然、あるいは、家族思いの子どもだね、と世間では思われがちですが、地域の支援につながらずに、その子どもが困窮に陥っています。実は、この現状を学校は把握している可能性があるんです。都としても調査を行なって実態を把握し、課題を探り、孤立させないよう地域の支援とつなぐ仕組みを作れるようにしていただきたいと思います。

重点項目の順番からご説明させていただきますが、「男も女も働く」の1番と、その上の、「高齢者も障害者も地域で暮らす」の3番について、ご説明させていただきますと思います。生活者ネットワークは今年、ジェンダー問題プロジェクトチームを立ち上げまして、東京に暮らす女性たちをテーマに、インタビュー調査と、男女平等参画に関する自治体調査を実施いたしました。これがそうなんですけれども、これがプロジェクトチームのつくった東京に暮らす女性たちの概要版、そして生活者ネットワークが作ったジェンダー自治体ランキングを公表させていただきました。男女平等参画に関する自治体調査では、条例や宣言の有無、あるいは管理職や市議会議員の女性の割合、小中学校の混合名簿や男性職員の育児休業取得目標値を調査して、自治体ランキングをつくりました。これがこの自治体ランキング表なんですけれども、ご覧になっていただけるようにお渡しできればというふうに思っていますが、ちょうど2日前に、世界経済フォーラムが、2018年度版の世界ジェンダーギャップ指数を公表いたしました。日本は世界149カ国中110位、G7の中で圧倒的に最下位になっています。

都は、東京都職員の男性の育児休業を2019年度までに15%にすることを目標にしていますが、2017年度の都職員の育児休業の男性の取得率は、7%にとどまっています。目標と非常にかけ離れている状況にあります。しかも、どのくらいの期間、日数をとっているかも分からず、私が質問をしたところ、1週間くらいがせいぜいということがございました。

育児休業のさまざまな政策というのは、イクボス宣言などしておりますけれども、目標に近づけるには、実態把握が重要です。男性職員が育児休業を取った期間、またどのような理由で取得しづらいのか、どうすれば取得しやすくなるのか、課題を把握することを求めます。

次に、都庁職員の障害者雇用です。先ほども申し上げました、「高齢者も障害者も地域で暮らす」の3番目です。年齢や障害を拡大するなどしておりますけれども、障害のある人も、ない人も、ともに当たり前働く時代に、現場ではどうすればいいのか、障害のある人の力を引き出して活躍してもらうにはどうすればいいのか、手探り状態にあると聞いております。障害者雇用が進んでいる民間企業の実績等も聞き、表彰はあるかと思いますが、実績等を聞いて、障害の特性を理解し、行政にも必ず、ある障害者が希望する仕事を見極めて、障害と仕事をつなぐ東京都の中での、都庁内での障害者就労支援コーディネーターを、専門的に配置するよう求めます。

次に、持続可能な環境をつくる項目の4ページ目、7番です。今年は災害級の猛暑とも言われるくらいの暑さが続きました。そのためもあってか、マイボトルや水筒を持参している人が多く目立ったかと思えます。ラグビーワールドカップや、オリンピック・パラリンピックに向けて、マイボトルの推奨を提案いたします。デザインや機能性等を募るのも良いでしょうし、マイボトルでドリンクを買う場合には、割引があったり、カップ値引きをすること、既に実施している店舗もあります。マイボトルを推奨することで、今、世界中の問題となっているプラスチックゴミの削減や、マイクロプラスチックの削減にもつながります。ホテルや町中で、東京の安全でおいしい水道水をマイボトルに入れて持ち歩くとかできるというふうにすると、東京の水道水のPRにもつながるのではないかと思います。ぜひともマイボトルの推奨を東京都が掲げていていただきたい、このようをお願い申し上げます。

最後に、人権、平和、多文化共生ですが、1番の、東京都が制定した人権条例、4ページ目です。東京都が制定した人権条例に基づく基本計画の策定には、当事者が参画して、議論する場を作るよう求めます。多様な性に対応した、社会制度を整備するには、性的志向や性自認等により困難を抱えている当事者などに、どのような困難を抱えているのか、困難解決に向けてどのような支援が必要なのか、意見等を聞き、議論をして、社会的理解を深めることが重要かと思えます。現在、策定に向かっている基本計画、東京都の人権条例に基づく基本計画策定には、当事者が参画して議論の場を作っていくよう求めます。

次に5番目、外国人の都政参画です。外国人都民会議というのが以前あったかと思えます。これをぜひ再開して、政策に活かしていただきたいと思えます。東京都は外国人居住者も多く、外国人とともに暮らし、働くのが既に当たり前になっています。居住している人の意見を聞くことによって、視点が変わります。例えば、今年は災害が多い年でした。今回大きな問題となったのは、避難の仕方も分からない外国人観光客に情報が伝わらず、食べる物も寝る場所も無い混乱状態が起きたことです。SNS等を使って母国の情報を得

て、ようやく状況が分かった。しかし、充電する場所が分からずに電池切れして、情報が得られなくなったなどの問題もありました。東京都は多言語対応を進めていますが、地震の無い国もあれば、避難の仕方も国によって異なります。居住している外国人の意見や提案を聞くことで、外国人観光客への素早い、そして役立つ災害情報、避難情報の伝達方法を検討していくことができるのではないのでしょうか。外国人都民会議でぜひ議論をして、そして、その意見を都政に反映していくような仕組みをぜひ作っていただきたいと思いません。以上、重点項目に沿って、「人」への投資を重点に、多様な個性が生き生きと暮らせる持続可能な多文化共生社会の実現に向けた提案をさせていただきました。予算編成にぜひ反映していただけるよう、お願いいたします。以上でございます。

○司会（武市財務局長） はい、「人」への投資ということで、ポイントを絞ってのご要望どうもありがとうございました。それでは、最後に長谷川副知事からお願いします。

○長谷川副知事 はい、今日はどうもありがとうございます。まさに「人」への投資を重点とするということで、貴重なご意見を賜りましたので、いただいたお話につきましては、知事にしっかりとお伝えしますとともに、年明けの知事査定の中で一つ一つ判断をしてまいりたいと思えます。また、1月下旬には予算案が公表できるようにしたいというふうには思っておりますけれども、都議会各会派の皆様方には事前にご説明をさせていただきたいというふうに思えます。その後、2月中旬から第1回定例会ということでございますが、改めて皆様と建設的な議論を積み重ねて、より良い予算、都政をつくり上げていきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

○司会（武市財務局長） はい、では以上を持ちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（都議会生活者ネットワーク 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。どうぞ、お待たせをいたしました。それでは、自由を守る会でございます。では最初に、要望書を副知事のほうへお願いできますでしょうか。

（自由を守る会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。では、どうぞご着席をお願いいたします。それでは、これより自由を守る会との来年度予算への政党要望をお伺いさせていただきます。それでは、上田先生、さっそくでございますが、お願いいたします。

○自由を守る会 どうぞよろしく申し上げます。本日からちょっと会派名が変わって、初日の大仕事ということで、きょうから自由を守る会という会派名に名称変更いたしました。どうぞよろしく申し上げます。私は当選以来、行財政改革を中心とした財源の担保、その上での過不足ない行政ニーズサービスの提供というところを主軸としておりまして、今回、「はじめに」とございませけれども、2ページから始まりまして、徹底した行財政改革、議員議会改革の実現。議会改革におきましては、当方側の仕事であります。ブラック

ボックスを壊すということで、唯一小池百合子知事をいの一で応援し、そして知事当選に尽力をした老舗会派でもございます。そのときから、ゆるぎなくこちらのほう、税源の確保をしていく中で、今般、非常に東京都及び知事もご苦勞をされながら政府に提言をされましたが、9,000 億近く税源が地方に回ってしまうというようなことになっております。

また、それだけではなくて、国直轄事業におきましても、東京都は、こちら支払わされているという現状がございまして、運用が非常に、法人二税は、ご承知のとおり、乱降下をしがちな税収でございます。苦勞しながらの舵取り、しかも政府からの奪取をにらみながらの今回の予算編成も、ご苦勞をすることと思いますが、どうぞよろしくお願いをいたします。そして、しっかりと節約して財源を確保したもので、やはり一番使っていただきたいのは、子どもたち、将来世代、未来の納税者に投資をしていただきたいということで、②のほうにお願いをしております。小池知事は、一番最初に、私の江戸川区に保育園に視察に来ていただきまして、まさにこの保育に関しては、非常に東京都は熱心にやっていただきまして、当方江戸川区では、昨年度は 19 園、今年、新年度は 14 園の新設保育園を東京都の大きな大きなお力添えで実現をすることになりました。あわせまして、2020 年、児童相談所が江戸川区へ移管する、これにおきましても、人員の教育、それから派遣等々のご協力をいただき、引き続きまして、そのための私は節税ということでお願いをしている、税金の無駄づかいを無くしていただきたいということでございます。

また、オリ・パラを踏まえ、新種の様々な外国人労働者、法律も変わりました、増えていくという中で、徹底した、やはり安全な東京、まちをつくっていくためには、やはり警視庁のお力を借りながら実現していただきたいと。また、この警視庁におきましては、認知症の高齢者を受け入れたり、また、虞犯行為の少年をまた保護したりと、さらには児童相談所、これから目黒区のような悲しい事件がないためには、大きく力を発揮していただきたいということで、非常に、特に生活安全課なんかは人が足りなくて大変そうなので、ここには大きく予算のほうを考えていただければというふうに考える次第でございます。

今申し上げたように、予算編成に関しましては、税収不安定の中、とにかく都債を、私、当選以来、平成 25 年度から、あのときは 6 兆円ぐらいあったのが、1 兆減らしていただきまして、また、引き続きのご努力を、お願いをしたいというふうに思っております。財政は、妥協なく改革で、持続可能な健全都政実現とありますが、要は、入るを量りて出ずるを為すという言葉どおりのことをやっていっていただきたいというふうに思っております。

また、組織編成につきましては、今般、私は、人勸の提案によります東京都職員の報酬のアップにつきましては、反対をさせていただきました。来年の都税収にも影響ありますけれども、消費税が上がりますし、庶民生活ではまだ景気がいいとは思っていない中、税金は上がる、公務員さんのボーナス、公務員さんの給料も上がるというのでは、やはり都民に説明がつかないというところで、反対をさせていただいております。しかしながら、

私は、東京都職員の自殺というのは、結構な数、いらっしゃいます。ここにも注目をしておりまして、東京都職員の労働環境の担保ということもお願いしたいと思っております。

また、自治制度でございますが、東京都庁の労働組合、竣工以来、無償対応しているということでございましたが、ご努力にありまして、半分に、私が当選以来、場所を狭くし、その部分を都民需要の高い事業に活用する部屋になっているということの報告をいただいております。あわせて、私がこのあいだの決算で、交通局や水道局、下水道局と、各局にも、こちら、組合事務所ですね。ありますので、こちらについてのまた対応も、よろしくをお願いをしたいと思っております。

あとは、学校の教育委員会改革を、東京都が音頭をとって進めていただきたいと思います。まず、クラスの中、担任で、そこで抱え込む、学校長で抱え込む、区教委、市教委で抱え込んでしまって、東京都は人事権がございますので、知ればすぐ迅速には動いていただけれるんですが、なかなか区市教委からの機動的な動きがないと都が動けないというところがございますので、既に東京都は体罰ガイドラインをつくっていただきまして、それを、行使をすれば、子どもへの体罰、教員による体罰、江戸川区ではお恥ずかしい話、今年の1月に、給食を無理やり食べさせてニュースになるという、あれは江戸川区の小学校でございまして、厳しく東京都では処分を下していただきましたが、いかんせん私が関わって、いろいろ動かしていただき、5年間もかかってしまったので、機動的な教育委員会改革をお願いしたいと思います。

保育園待機児童におきましては、非常にこのまま、また進めていただきたいと思います。お願いします。

また、福祉費がかなり増大しておりまして、精神医療におけます自立支援医療が、大変な金額、たぶん300億近くになるかと思うんですが、これが自立をしているかどうかの数値目標等々も無いという中で、とにかくこうしたところから、数字と制度に基づいて、効果が発揮されているか、福祉はなかなか切るとは厳しいのでございますが、逆に非常にニーズが高いものもありますので、過不足ない福祉で、1点集中をしていただきたいと思います。

また、都市間競争に勝つ産業ということで、できれば民間でできることは民間で行うということをお願いしたいと思います。今回のこどもの城購入に関しては、私もちょっとハテナマークのところがあります。障害者支援施設は真隣にもありますし、創薬ベンチャーを支援ということで知事もおっしゃってますけれども、ベンチャーが自由に活躍できるソフトウェアをご用意するだけで、箱物まで用意する必要はないのかなあというふうに思いながら、見守ってまいりたいと思っております。

また、セクハラ、パワハラ、やっとなら日本も進化をしつつ、東京都の役割も果たすところが大きいと思っております。労働センターの相談や労働委員会、こういったものが都民の労働を守るような、また国との二重、三重の仕事がないように注視をしながら、進めていただきたいと思います。

また、五輪につきましては、私のところは、かのスラローム競技場がございますが、もう既に年間1.9億円の赤字が見込まれておりますので、後利用をどうしていくかということをお考えつつ、進めていただければと思います。

また、環境保全につきましては、当方、またラムサール条約等、うちの江戸川区の葛西も決まりましたけれども、東京の持つ自然を、海洋資源は特に守っていただきたいと思います。そこが漁業の活性化にもなりますし、東京港の水質の保全にもつながるということをお願いをいたしまして、私の予算要望とさせていただきたいと思っております。

○司会（武市財務局長） 財政規律に目配りをいただきまして、どうもありがとうございました。それでは、副知事のほうから、最後に一言。

○長谷川副知事 自由を守る会としての最初の、大変多面的なご意見を賜りましたので、いただいたご要望については、まず知事にちゃんとお伝えして、その上で、年明け早々からの知事査定の中で、1つ1つ考えさせていただきたいというふうに思います。その上で、1月下旬にはどうか予算発表できるようにしたいと思っておりますので、都議会各会派の皆様方には、事前にご説明をさせていただきたいと思っております。また、その後、第1回定例会において、改めて建設的な議論を積み重ねて、より良い予算としていくようにしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○自由を守る会 楽しみにしております。

○長谷川副知事 どうも本日はありがとうございました。

○自由を守る会 こちらこそありがとうございました。

○司会（武市財務局長） では、以上をもちまして、終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（自由を守る会 退室）